

木造密集市街地における緑地と集合住宅の計画に関する研究

日大生産工（院） ○佐藤 文悟
日大生産工 篠崎 健一

1. 研究の方針

本研究は、木造密集市街地において街並みを継承していく整備の手法について、計画と設計を通し提案する。

2. 研究の背景

東京都では、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ1995年（平成7年）に「防災都市づくり推進計画」を策定し、建築物の不燃化や共同化による街区の整備等を行い、市街地の整備を行ってきた。中でも、都心部周囲に広がる木造密集市街地は、2012年（平成24年）に「木密地域不燃化プロジェクト」を策定するなど重点的に整備が進められている。

「防災都市づくり推進計画」の策定に基づき、幹線道路沿いの整備については進みつつあるが、その内側の住宅地については建替等の整備が進んでいないのが現状である。

整備の進まない要因の中で、直接整備に対する意見として、「建替や共同化などの整備がこれまでの関係（街並み、人間関係等）を崩すから」という意見があげられており、整備のあり方について疑問が投げかけられている。

長きに渡り住み続け、これからも住み続けたいという意見の多い木造密集地域において、地域の関係性というのは、非常に大事であり、共同化等の整備を行うにあたり、これまで築き上げてきた地域での住まい方に目を向けた整備のあり方が必要である。

対象地域として取り上げる東京都目黒区原町1丁目では、低層の木造住宅が密集し、細街路（路地）が多く存在し、細街路の至るところで写真1のような住居から公的な道路にあふれ出した私物品（以降あふれ出しと略称）が見られ、下町情緒を作り出している地域である。

青木義次らの路地論文によると、路地空間におけるあふれ出しは、対話を増加させ、路地内住民間の絆を強めることに貢献するとあり¹⁾、あふれ出しの見られる本対象地域を考えていく上で、「路地」や「あふれ出し」は重要な役割を果たすのではないかと考える。

4. 研究の目的

本稿では、対象地域内の細街路とあふれ出しについて調査し、地域の特徴を明らかにし、街並みを継承していくための知見を得ることを目的としている。

5. 調査方法

対象地域内を実際に歩き、道路幅の測定および地図

上で確認できない細街路を抽出する。

細街路の抽出とともに、対象地域内にあふれ出しているものを地図上にプロットし、地域の特徴を探っていく。



写真1 対象地域に見られるあふれ出し

4. 細街路の抽出

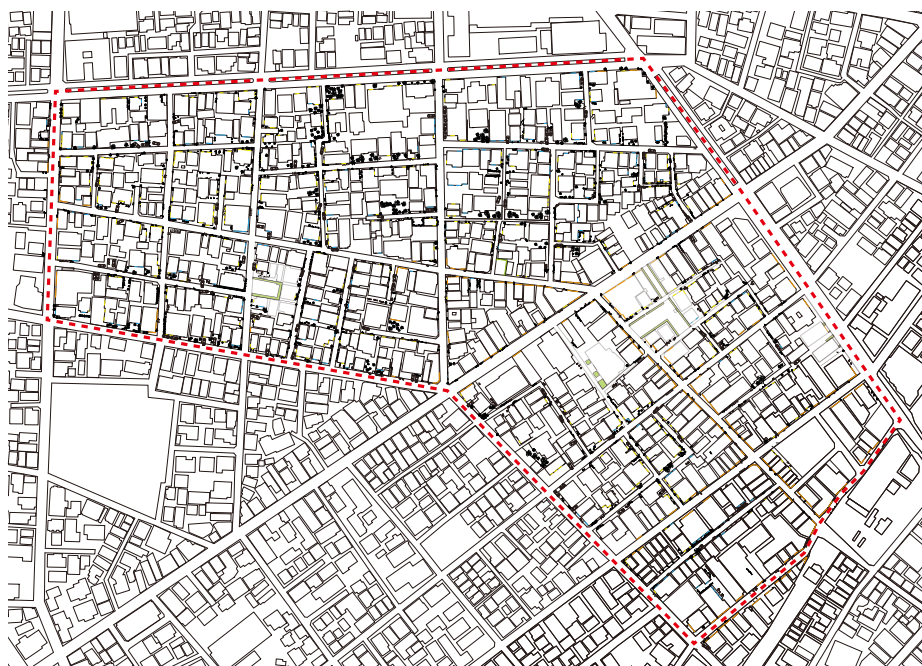


図1 対象地域内の道幅

図1は対象地域内にある道の幅を示したものである。作成した図では、地図上に示される道路だけでなく、街区内部の建物へのアプローチ等も「道」とみなし抽出を行った。

対象地域内では、6m未満の道路が全延長の約80%を占め、4m未満の狭い道路は約40%を占めている。対象地域では、地図上で確認できない街区内部の建物へのアプローチのために設けられた袋小路型の細街路が、街の至る所に点在していることがわかった。

袋小路型の細街路は、災害時の避難経路が1方向しかないため、非常に危険である。地域の災害対策を進めていく上で袋小路型の細街路を解消していく対応が必要である。



植木
 花壇
 植木鉢
 イス
 物干し
 使わなくなった家具
 看板
 ノボリ
 かご
 店の商品
 ダンボール
 バイク
 自転車
 自動車 等

図2 あふれ出しのプロット

表1 あふれ出しの例

5. 路地空間におけるもののあふれ出し

対象地域のあふれ出しているものを地図上にプロット（図2）し、あふれ出ているものをまとめた（表1）。

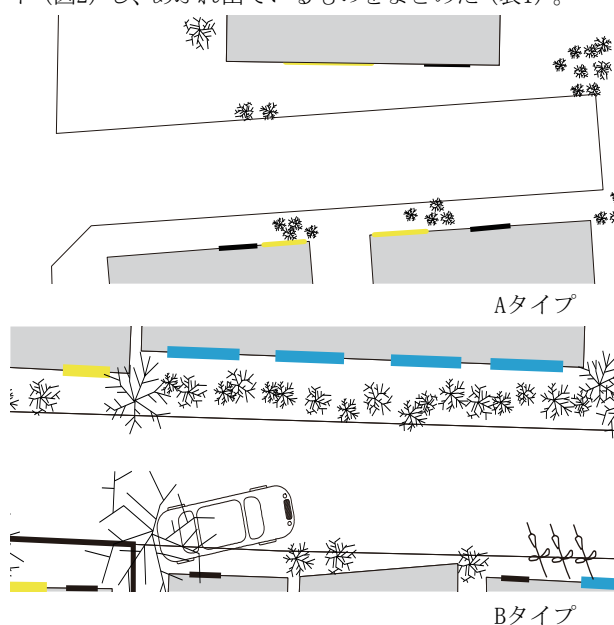


図3 路地平面図

対象地域では、植木鉢などの植物のあふれ出しが多く、特に4m未満の細街路であふれ出しが多く見られた。

図3のように、部外者の通過交通という観点から、通りぬけ通路がない道（Aタイプ）と通りぬけ通路がある道（Bタイプ）の大きく2つに分け、観察を行うと、通りぬけ通路がある道（Bタイプ）において、あふれ出しが多い傾向にある。

6. まとめ

対象地域では、6m未満の道路が全延長の約80%を占めている。さらに地図上では確認できない街区内部

の建物へのアプローチのために設けられた幅2m以下の袋小路型の細街路が多く存在することがわかった。このような袋小路型の細街路は災害時に危険であり、整備していく必要がある。

路地空間におけるあふれ出しにおいては、街のいたるところであふれ出しがみられ、特に通り抜けできる路地でのあふれ出しが多く見られた。

7. 共同化の可能性

この地域のいたるところでみられるあふれ出しは、下町情緒と親しまれ、街の風景となっており、「あふれ出し」の風景を継承していくことが大事である。

本稿で明らかにした、地域内に存在する袋小路型の細街路とその危険性、路地空間のあふれ出しの特徴から、図4のように、敷地内部に通り抜け通路をつくるような整備を行うことで、あふれ出しを誘発し、あふれ出しのある路地の風景を継承していきながら整備を行うことができるのではないかと考える。

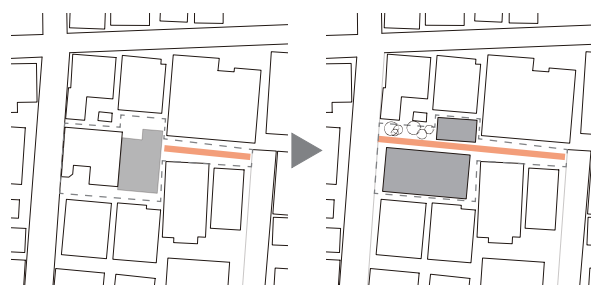


図4 整備手法の提案

〔注釈〕

注1) 青木義次・湯浅義晴 物の行為のあふれ出しからみた路地空間の役割 日本建築学会大会学術講演梗概集（1989）p165-166